

授業科目名 (英文名)	応用財務会計論 (経営学部・専門科目) (Advanced Financial Accounting)	科目区分 対象学生																															
単位数	4.0	開講年次・ 学期	2～4年次・後期																														
担当教員	土田 俊也	所属	会計研究科																														
オフィス・場所		連絡先																															
講義目的及び到達目標	この科目の目的は、財務会計の主要な論点について、会計の基礎理論や現行の会計制度と関連づけながら解説することにある。そして、受講生が、財務諸表の全般的な内容について、体系的に理解できるようにすることを目標とする。																																
講義内容・授業計画	<p>講義内容 利益測定と資産評価の基礎概念、資産会計、負債会計、資本(純資産)会計、財務諸表の公開制度、について講義する。なお、学部の授業としては難解な内容(日商簿記検定1級レベル)も含まれるので、問題演習なども交えながら進めていきたい。</p> <p>授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>01. ガイダンス、簿記の知識の確認</td> <td>16. 無形固定資産と研究開発費</td> </tr> <tr> <td>02. 発生主義会計の基本原則</td> <td>17. 引当金の会計</td> </tr> <tr> <td>03. 資産評価の基準</td> <td>18. 法人税等</td> </tr> <tr> <td>04. 現金預金および有価証券の会計</td> <td>19. 税効果会計</td> </tr> <tr> <td>05. デリバティブとヘッジ会計</td> <td>20. 社債</td> </tr> <tr> <td>06. キャッシュ・フロー計算書</td> <td>21. 退職給付に関する会計</td> </tr> <tr> <td>07. 収益の認識(新収益認識基準)</td> <td>22. 資産除去債務</td> </tr> <tr> <td>08. 生産基準による収益の認識</td> <td>23. 中間テスト(2回目)</td> </tr> <tr> <td>09. 棚卸資産の取得原価と原価配分</td> <td>24. 純資産の構成と払込資本</td> </tr> <tr> <td>10. 売上原価および棚卸資産の期末評価</td> <td>25. スtock・オプション会計</td> </tr> <tr> <td>11. 中間テスト(1回目)</td> <td>26. 稼得資本</td> </tr> <tr> <td>12. 有形固定資産の取得</td> <td>27. 財務諸表の体系</td> </tr> <tr> <td>13. 減価償却</td> <td>28. 包括利益</td> </tr> <tr> <td>14. 減損会計</td> <td>29. 株主資本等変動計算書</td> </tr> <tr> <td>15. リース会計</td> <td>30. まとめ</td> </tr> </table> <p>定期試験</p>			01. ガイダンス、簿記の知識の確認	16. 無形固定資産と研究開発費	02. 発生主義会計の基本原則	17. 引当金の会計	03. 資産評価の基準	18. 法人税等	04. 現金預金および有価証券の会計	19. 税効果会計	05. デリバティブとヘッジ会計	20. 社債	06. キャッシュ・フロー計算書	21. 退職給付に関する会計	07. 収益の認識(新収益認識基準)	22. 資産除去債務	08. 生産基準による収益の認識	23. 中間テスト(2回目)	09. 棚卸資産の取得原価と原価配分	24. 純資産の構成と払込資本	10. 売上原価および棚卸資産の期末評価	25. スtock・オプション会計	11. 中間テスト(1回目)	26. 稼得資本	12. 有形固定資産の取得	27. 財務諸表の体系	13. 減価償却	28. 包括利益	14. 減損会計	29. 株主資本等変動計算書	15. リース会計	30. まとめ
01. ガイダンス、簿記の知識の確認	16. 無形固定資産と研究開発費																																
02. 発生主義会計の基本原則	17. 引当金の会計																																
03. 資産評価の基準	18. 法人税等																																
04. 現金預金および有価証券の会計	19. 税効果会計																																
05. デリバティブとヘッジ会計	20. 社債																																
06. キャッシュ・フロー計算書	21. 退職給付に関する会計																																
07. 収益の認識(新収益認識基準)	22. 資産除去債務																																
08. 生産基準による収益の認識	23. 中間テスト(2回目)																																
09. 棚卸資産の取得原価と原価配分	24. 純資産の構成と払込資本																																
10. 売上原価および棚卸資産の期末評価	25. スtock・オプション会計																																
11. 中間テスト(1回目)	26. 稼得資本																																
12. 有形固定資産の取得	27. 財務諸表の体系																																
13. 減価償却	28. 包括利益																																
14. 減損会計	29. 株主資本等変動計算書																																
15. リース会計	30. まとめ																																
テキスト	桜井久勝『財務会計講義(第19版)』中央経済社。 『新版 会計法規集(第10版)』中央経済社。 (改訂版が出版された場合には、最新版を使用する。)																																
参考文献	『検定 簿記ワークブック1級商業簿記・会计学』中央経済社。 (上巻と下巻に分かれている。)																																
成績評価の基準・方法	中間テスト30%、期末試験70%で評価する。																																
履修上の注意・履修要件	基礎的な簿記および会計学は学習済みであることを前提に授業を進める。また、授業を聴くだけでなく、各自で復習をすることも必要である。																																
実践的教育	該当しない。																																
備考	会計基準の改訂があった場合には、その内容を取り上げるため、授業計画を一部変更する可能性がある。																																